

---

Last

望実

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Last

### 【Nコード】

N2728B

### 【作者名】

望実

### 【あらすじ】

理子は、普通の主婦だった。しかし、ある日の夜、気持ち弾けて…

十六夜の夜、理子の感情が弾けた。

「もう、どうにも止まらない。子供のように貪欲に、あの人を求めてしまう。」

そう思いながら、靴をはいた。

「こんなにも愚かな私をあの方は、受け入れてくれるだろう。」

確かな確信を、胸に抱いて、部屋を出た。

理子には、自分が何をしているのか、わからなくなっていた。

本能と感覚の中で、行動をしていたからだ。

団地の階段を降りる…ヒールとコンクリートがぶつかり、音が鳴り響いていた。

駐車場に向かう途中で、近所の方が挨拶をしているようだが、それも理子の頭には聞こえていなかった。

車に乗り込み、無意識にハンドルをきる…。

車のラジオもステレオもついていない。

しかし、理子の頭の中には、理子と最愛の浅岡との思い出のシャンソンがながれていた。

激しく

「愛」を歌った歌が、理子は、自分の気持ちとシンクロさせていた。

「あの人と生きて生きたい。」

何もかも捨てて、不倫相手の浅岡と、人生を賭けて歩きたいと願っていた。

そう強く願えば願う程、感情が高ぶり、目から、涙が止まらなかった。

こんな風に、感情をださなくなっていたので、自分でも戸惑っていた。

「あの人に、早く逢いたい。」

理子の車のスピードが、気持ちと共に加速され…

…そして…

理子が、目の前のトラックに気付いた時には、もう遅く、次の瞬間、やけに光りが眩しかった。

薄れていく意識の中で、ゆっくりと走馬灯が流れ、理子は自分に終わりが来ている事を知った。

人の声がつつすら聞こえ、救急車のサイレンも近づいているよう。

頭からは、生温かいものを感じ…大量に出血しているのがわかった。

死を悟った理子は、

「あの人を愛せてよかった。」

そう思い、静かに瞳を閉じた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2728b/>

---

Last

2011年1月26日04時06分発行